

# 若手エンジニアによる AI駆動 開発実践プロジェクト

2025.10

# アジェンダ

---

- 企画の背景と目的
- 企画概要
- チーム体制と開発テーマ
- 計画とデモンストレーション
- プロジェクト要件
- 今後の展開

# 01

## 1. 企画の背景と目的

# ソフトウェア開発における AI活用の現状と課題

---

急速な発展に対し、現場での実践的ノウハウが不足している状況

- 背景
  - 生成AIの発展により、開発現場での AI活用が急務
  - 多くのエンジニアが「どう使えばいいか」を模索中
- 目的
  - 若手主導の実践プロジェクトを通じ、**具体的な方法論とノウハウを共有**
  - 社内での積極的なAI活用を促進
- 期待される効果
  - 部内エンジニアのAIツール活用率の向上
  - **開發生産性の向上** とコード品質の改善
  - 若手育成における新たな手法の確立
  - 組織全体のAX推進への貢献

# 02

## 2. 企画概要

# 若手3名で駆け抜ける！ AI駆動開発プロジェクトジャーニー

---

3ヶ月間の実践的なWebアプリ開発を通じて、AI活用のリアルな知見を共有

- **実施内容**: 若手エンジニア3名がAI開発支援ツールを駆使し、Webアプリを開発
- **成果発表**: 3ヶ月間の開発プロセスと成果を**60分**で発表
- **対象者**: 社内の全エンジニア
- **実施期間**: 開発3ヶ月 + 発表会

# 03

## 3. チーム体制と開発テーマ

# プロジェクトメンバーと役割分担

経験年数の異なる3名が、それぞれの立場でAI活用に挑戦

## リーダー：西澤君 (5年経験)

全体の進捗管理、技術選定、アーキテクチャ設計を担当

AI活用: **設計思想の壁打ち**、複雑なロジック実装相談

## メンバー：南雲君 (2年経験)

主要機能実装、新人メンタリングを担当

AI活用: **Reactコンポーネント雛形作成**、リファクタリング

## メンバー：澤田君 (新人)

UI実装、ドキュメント整備を担当

AI活用: **エラー解決**、CSSスタイリング、Git学習



# 開発テーマ:「AI活用ナレッジ共有サイト」

AI活用の実践知を集約・共有するプラットフォームを、AIを使って開発



# 04

## 4. 計画とデモンストレーション

# プロジェクトスケジュール( 3ヶ月)

アジャイル開発(1週間スプリント)で、毎週振り返りを実施

1ヶ月目



基礎固めと  
プロトタイプ開  
発

2ヶ月目



機能拡張とチーム開  
発文化の醸成

3ヶ月目



品質向上とデモ準備

発表会



成果発表

# デモンストレーション内容( 60分)

各メンバーの視点から、AI駆動開発のリアルな実践知を共有

時間	セクション	担当	内容
5分	イントロダクション	西澤	プロジェクト概要、 チーム紹介
10分	成果物デモ	南雲	開発したWebアプリの実 演
20分	AI駆動開発ジャーニー	全員	各メンバーの実践事例と プロンプト紹介
10分	考察とメリット・デメリット	西澤	定量・定性効果、課題と対 策
10分	まとめと実践 Tips	南雲	明日から使えるAI活用方 法
5分	Q&A	全員	質疑応答

05

## 5. プロジェクト要件

# 必要なリソース

## 人的リソース

プロジェクトメンバー 3名 (週  
10h/人)  
メンター/アドバイザー  
(月1-2回)

## ツール・環境

GitHub  
VS Code + Github Copilot  
Jira  
AIツール  
(ChatGPT, Claude, Gemini)  
発表会場  
(Zoom or Meet)

## 予算

Github Copilot  
\$10/月 \* 3人 \* 3カ月  
合計: \$90 約15,000円

# リスク管理

想定されるリスクと対策を事前に定義

リスク	影響度	対策
スケジュール遅延	中	毎週の進捗確認、スコープ調整
メンバーの業務多忙	中	他業務との優先度調整、 バッファ設定
技術的な壁	低	メンター支援、AI活用による解決
成果物の完成度不足	低	<b>MVP(最小限の機能)の明確化</b>

# 成功の評価指標

定量的・定性的な指標でプロジェクトの成果を評価

## 定量指標

- 発表会参加者: **20人以上**
- ○○○
- ▼▼▼

## 定性指標

- 部内でのAI活用に関する会話の増加
- 若手育成における新しいアプローチの確立
- ナレッジ共有文化の醸成



06

## 6. 今後の展開

# プロジェクト後の展開プラン

一過性の活動で終わらせず、組織全体のナレッジとして定着させる

## 短期(発表後1ヶ月)

- 発表資料とコードの GitHub 公開
- AI活用ナレッジの社内 Wiki への展開
- 追加の質問会・ハンズオンの開催検討

## 中長期(3ヶ月～)

- **他チームへの横展開**
- AI駆動開発ガイドラインの策定
- 定期的なAI活用事例共有会の開催